

技能実習期間中の課外活動に関する取組好事例①

令和4年度 調査結果

外国人技能実習機構

愛知県 A1 監理団体

【監理団体概要】

実習生の国籍：インドネシア、中国

実習生の職種：プラスチック成形

- 【ポイント】 ✓日本文化を体験するため、年賀状コンテストを開催
- ✓作文コンテストを実施したり、監理団体主催の日本語教室を開催し、日本語学習を支援

年賀状作成を通して、日本文化を習得

実習生に日本文化に触れる機会を設けるため、監理団体は「年賀状コンテスト」を開催した。実習生たちは自分の生まれた年の干支を調べることから始めた。優秀作品は実習実施者社員の投票で選ばれ、優秀作品の実習生には賞状と賞品（カラーペンのセット）が贈呈された。実習生からは、「仲間の絵が上手で驚いた。」等の感想が上がった（写真）。監理団体の担当者のもとに実習生からSNSで「あけましておめでとうございます」という新年のあいさつが届くようになったり、実習生のいつもと違った一面を見ることができて非常に有益であったとの声が上がっている。

作文コンテストの実施、日本語教室の開催

作文コンテストを実施し、監理団体の日本語講師が文法、原稿用紙の使い方等について評価し、監理団体職員が作文の内容等を評価している。表彰者には、「文章を書くこと」に関連して、賞品としてレターセットを贈呈している。また、日本語能力試験等の支援のため、毎週土曜日に1時間、監理団体主催の日本語教室を開催している。無償で日本語を学べる機会とあって、出席率は高く、教室内はいつも笑顔が溢れている。教室開催時、実習生から様々な相談を受けることもあり、実習生の状況を見守る一助ともなっている。



優秀作品と実習生



技能実習期間中の課外活動に関する取組好事例②

令和4年度 調査結果

外国人技能実習機構

愛知県 A2 監理団体

【監理団体概要】

実習生の国籍：インドネシア

実習生の職種：内装仕上げ施工

- 【ポイント】 ✓地元の中学校で技能実習生が講師となり、相互理解を深める
- ✓地域のお祭りを通じて地域住民と交流
- ✓日本語学習を支援

中学生と実習生の交流授業を行い、相互理解を深める

近隣の中学校から「技能実習制度や外国人が日本に来ている理由等について理解を深める取組をしたい。」という相談が寄せられた。実習生たちは中学校で講師となり、技能実習として来日した理由、インドネシアでの生活及び文化等について発表した。その後、生徒たちからの「日本はどんな国ですか。」「海はきれいですか。」「好きな歌は何ですか。」等の質問に答えた。生徒と実習生からは「初めは緊張したが、楽しかった。」という感想が寄せられた。実際に対面交流をして相互理解を深めることで、挨拶のできる親しい関係が築けた。中学校側とは今後も定期的に交流を続けていこうと話している（写真）。

地域の人と秋祭り等で交流

地域社会との交流の促進及び日本文化を知ってもらうために、実習生たちに秋祭り等の地域イベントに積極的に参加してもらっている。浴衣の着用を希望する実習生には、近隣の着物教室等の協力を得て、浴衣を着る機会も設けている。

日本語学習支援

日本語学習支援として、定期的に始業前又は終業後、日本語能力試験の受験クラス別に1時間の日本語授業を行っている。受験者全員にテキストやその他の教材を無償配布しているほか、日本語能力試験合格者に対する報奨金制度を導入し、モチベーションの向上を図っている。



中学生と実習生の交流授業

技能実習期間中の課外活動に関する取組好事例③

令和4年度 調査結果

外国人技能実習機構

兵庫県 G監理団体

【監理団体概要】

実習生の国籍：ベトナム、ミャンマー、タイ、カンボジア、中国

実習生の職種：建設関係、食品製造関係、機械・金属関係等

【ポイント】 ✓組合通信を配布し、日本での生活を支援

✓日本文化習得を支援

✓独自教材による日本語学習システムを構築し、日本語学習を支援

組合通信を作成し、実習実施者と実習生に配布

監理団体は実習実施者と実習生向けに3か月に1度、組合通信を配布している。組合通信には厚生労働省や法務省からの案内、出入国の情報、日本語能力試験の情報、日本語に関する行事（作文コンクール、試験対策講座等）や組合イベント（花見会、バーベキュー大会）の開催状況を掲載し、実習生の日本での生活を支援している（写真①）。

日本文化を学びながら、日本での生活様式を体験

日本文化を学ぶ機会として、京都の清水寺や伏見稲荷大社等への観光を実施している。その際、観光だけではなく、実生活上で必要な電車の乗り方、切符の買い方、ATMの操作方法等を体験し、実践することも目的としている。

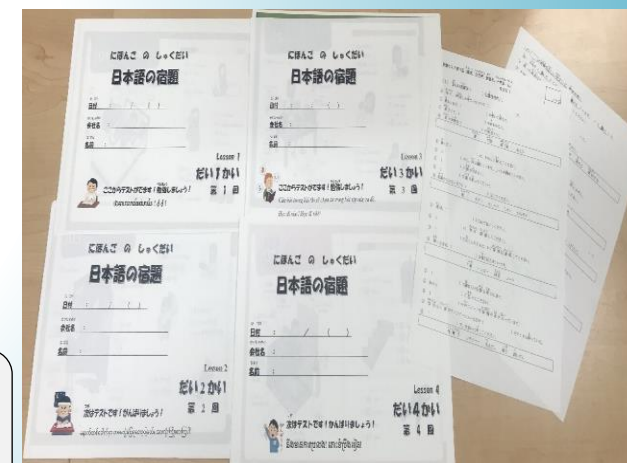
見学中、実習生たちは和菓子屋で和菓子とお茶を楽しむなど、日本の「和」も体験している。

独自に教材や試験問題を作成し、日本語学習を支援

監理団体は、実習生の日本語能力向上のため、独自に作成した「学習資料（生活で使う単語帳）」、その単語帳から出題する「確認試験」を作成し、2015年から配布している。以後、教材を徐々に改良し、現在では5か国語用の資料を作成している。実習期間の3年間に、2回の学習資料配布後に1回の確認試験を行うというローテーションを繰り返し行っている。「組合通信」の中で確認試験の結果を発表し、入賞者を表彰している。今後も時代の変化に対応し、職種に応じた単語帳の作成に取り組んでいくこととしている（写真②）。



写真① 組合通信



写真② 日本語学習資料、確認試験